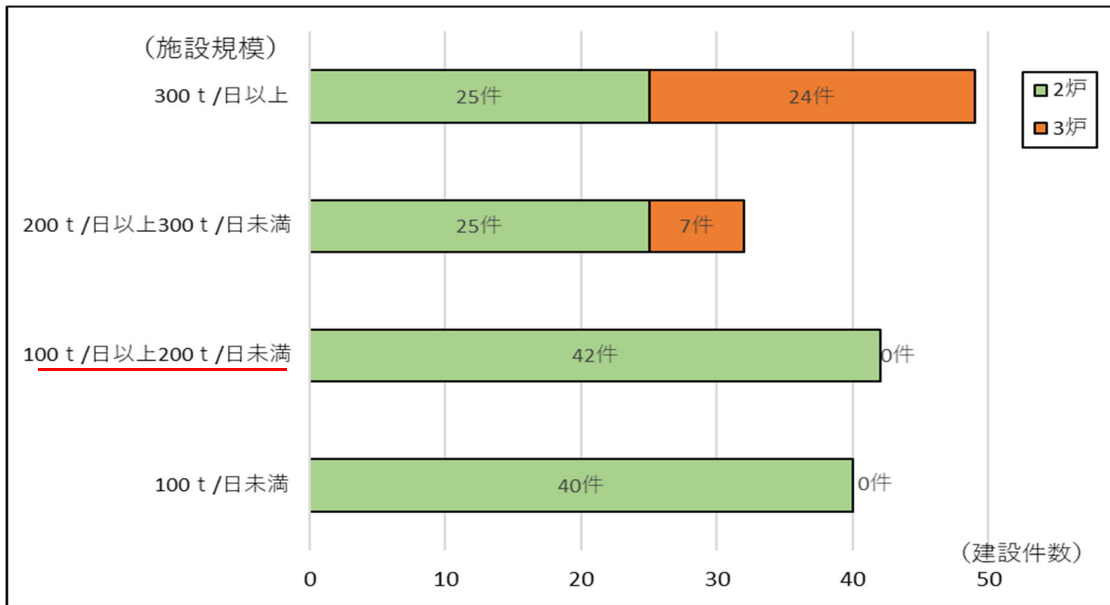


(補足資料 2)

炉数の比較検討結果について

(1) 他事例の実績



※ 24時間連続運転のストーカ式焼却炉について、直近20年間（2001年以降）に稼働開始したごみ焼却施設について集計
 ※出典：令和元年度一般廃棄物処理実態調査（令和3年4月、環境省）

施設規模が200トン/日未満のストーカ式焼却炉では、直近20年間において3炉構成の施設は建設されていない。

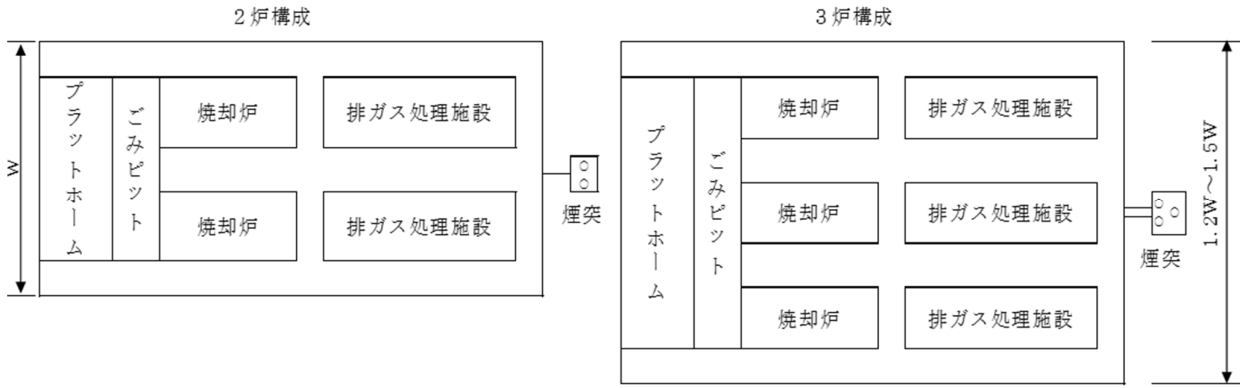
(2) 環境
 ア 公害防止対策

焼却炉規模	ダイオキシン類排出基準値 (ng-TEQ/m ³ N)
4トン/時以上 (96トン/日以上)	0.1
2トン/時以上～4トン/時未満 (48トン/日以上～96トン/日未満)	1.0
2トン/時未満 (48トン/日未満)	5.0

※ 2炉構成の場合（144トン/日）
 ・炉規模：72トン/日 ⇒ 排出基準値：ダイオキシン類1.0ng-TEQ/m³N
 ※ 3炉構成の場合（144トン/日）
 ・炉規模：48トン/日 ⇒ 排出基準値：ダイオキシン類1.0ng-TEQ/m³N

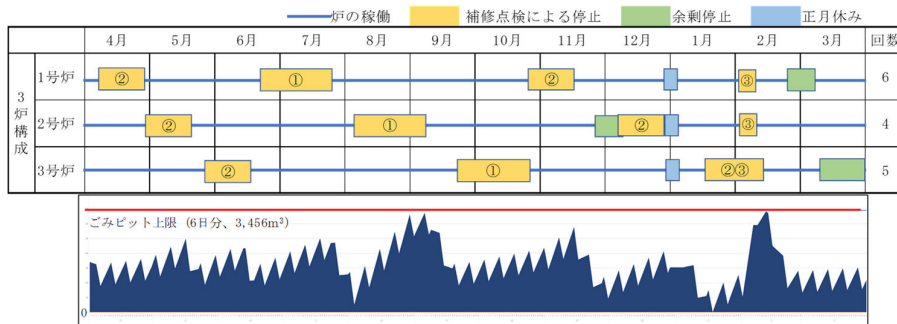
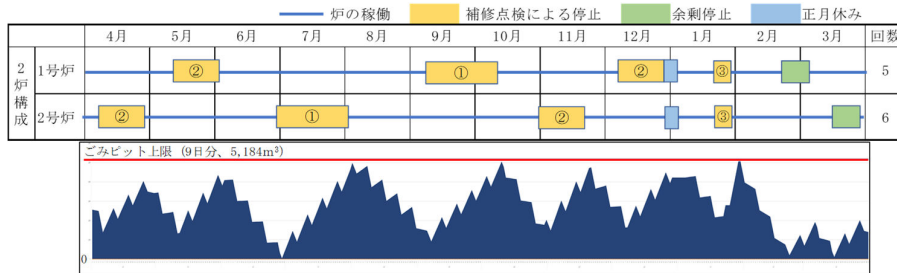
- ・ 法令で定められた排出基準値は、炉の規模により異なっており、炉規模が大きいほうが規制値は厳しい。
- ・ 小さい焼却炉でも安定した運転が可能であるが、一般的には規模の大きい焼却炉の方が安定燃焼可能な炉内環境を維持しやすい。

(2) 環境
イ 景観



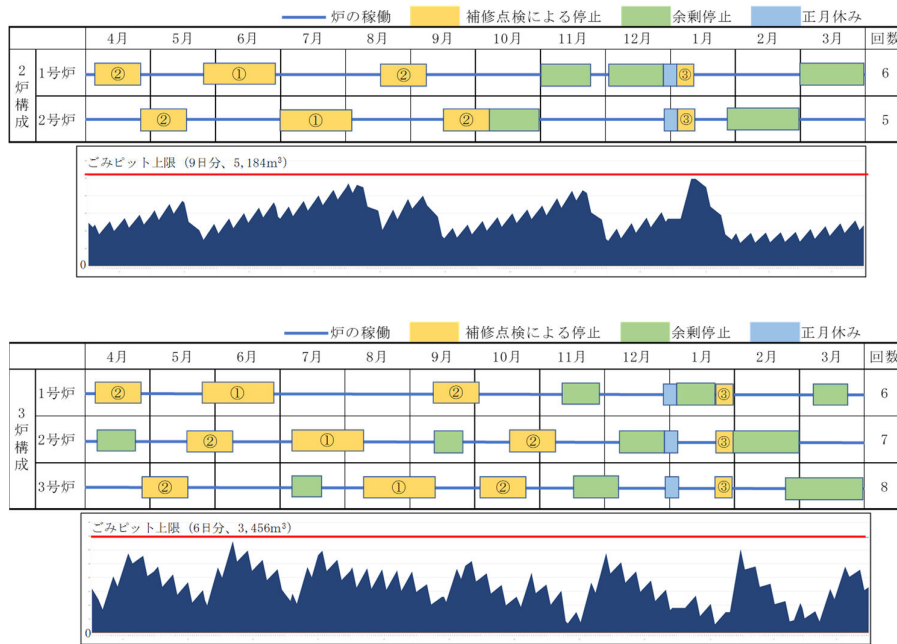
2 炉構成の方が建物による近隣地域への圧迫感が小さい。

(3) 運転維持管理



2 炉構成の方が年間の焼却炉の起動・停止の回数が少なく、点検機器数も少ない。

(4) ごみ減量への対応



ごみ減量への追従性は3炉構成の方が有利であるが、2炉構成であっても、状況に応じた運転により、ごみ減量への対応は十分可能である。

(5) 経済性

項目	2炉構成 (72トン/日×2炉)	3炉構成 (48トン/日×3炉)
資源循環型施設【建設費】	119.4億円	140.4億円

3炉構成とすることにより、建設費、運転・維持管理費は高価となる。